

CONTENTS

- センター長挨拶 P1
- DHR研究班レポート P2
- KU-ORCASの軌跡 P3
- DHコンソーシアムの活動について P4

センター長挨拶

関西大学アジア・オープン・リサーチセンター長

二階堂喜弘



2025年度から、東西学術研究所および関西大学アジア・オープン・リサーチセンター (KU-ORCAS) においては、研究体制が大きく変貌を遂げることとなった。東西学術研究所には、KU-ORCASに所属するデジタルヒューマニティーズ・リサーチ班 (DHR班) を含め、8つの研究班体制が設けられ、新たな研究推進の枠組みが構築された。

DHR班には、進展するデジタルヒューマニティーズ分野の最新動向を把握し、その成果や知見を学内外へ広く共有することが期待されている。DHコンソーシアム協議会への参画をはじめ、分野横断的な連携を通じて、学際的研究の基盤形成に寄与する役割を担っている。

KU-ORCASは、2017年度に文部科学省の私立大学研究ブランディング事業として採択された「オープン・プラットフォームが開く関大の東アジア文化研究」を出発点として設立され、国の事業期間終了後も、2020年度からは「関西大学研究ブランディング事業」として、本学独自の取り組みとして研究体制が継承されてきた。現在、制度的枠組みの変化を含む新たな節目を迎えつつあるが、これまでに培われた研究ネットワークと方法論は、今後の活動においても重要な基盤となるものである。

本号では、新体制のもとで展開されている研究活動の一端を紹介するとともに、2025年度末をもって区切りを迎える「関西大学研究ブランディング事業」としてKU-ORCASが歩んできたこれまでの軌跡と現在の到達点を示したい。今後も東西学術研究所との連携を軸に、開かれた研究拠点としての役割を果たしていきたいと考えている。

天保山風景(森一鳳)



象之繪巻物(尾形探香)



DHR 研究班 レポート

二階堂 善弘
DHR研究班
主幹



2025年度のDHR班の活動としては、研究例会1回に加えDHコンソーシアム協議会の部会への参加が2回あった。本レポートでは、開催した研究例会について報告をご紹介します。

主幹の二階堂善弘は「KU-ORCAS 電子データベースの可能性」とのタイトルで発表を行った。新しくKU-ORCASに導入された「中華石刻数拠庫」の機能や役割を中心に紹介した。続けて、二ノ宮聡研究員によって「学外接続によるKU-ORCASデータベースの使用法」とのタイトルで発表が行われた。学外からKU-ORCAS所蔵のデータベースをどう使うかについて解説された後、討論が行われた。データベース資料のなかでは、特に買地券について特殊な書き方をするものが多く、その形式や内容について集中的な討議が行われた。また、道教に関連する資料が、『道家金石略』に基づくものであるかどうかについて議論が重ねられた。六朝や唐の専門家は少なかったが、資料の意義についての議論はかなり熱心に行われた。

2025年度東西学術研究所 KU-ORCAS 研究例会 DHR 研究班 第5回研究集会

2025年9月27日開催

「電子データベースの可能性」

「KU-ORCAS
電子データベースの可能性」
主幹 二階堂 善弘
(関西大学文学部教授)



「KU-ORCAS 電子データベースの可能性」とのタイトルで発表を行った。新しくKU-ORCASでは「中華石刻数拠庫」のうち、「漢魏六朝碑刻数拠庫」と「唐代墓誌銘数拠庫」が新たに使用できるようになった。その使用法と、どのように研究に役立てていくかについて説明を行った。また、実際に使用し、実例を示しつつその活用方法について模索を行った。

いくつかの資料については、学術上非常に珍しいものであることが判明し、討論が行われた。さらに、「文心閣古籍数拠庫」の活用についても、例を挙げて説明を行った。その有用性と、また問題点についても議論があり、討議が行われた。

「学外接続によりKU-ORCAS
データベースの使用法」
研究員 二ノ宮 聡
(北陸大学専任講師)



9月27日に開催されたDHR班第5回研究集会において「学外接続によるKU-ORCASデータベースの使用法」と題して報告をおこなった。報告では、まず関西大学が提供するVPN接続方向について確認し、学外から接続した際の感想を紹介した。次に、一昨年に導入された中華石刻データベースについて道教研究の視点から『道家金石略』と比較した。データベースに登録される題名と『道家金石略』の題名には違いが見られ、同一資料であっても検索に当たらない場合が多い。使用する際には、こうした点に注意を払う必要がある点を中心に紹介した。

KU-ORCAS

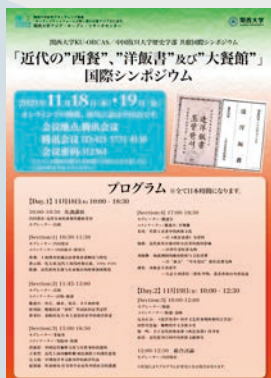
KU-ORCAS HISTORY

の軌跡

2021



2020年7月1日～
2021年3月31日
「コロナアーカイブ@関西大学」を核とした新型コロナウイルス感染症およびスペイン風邪の記録と記憶収集発信プロジェクト



11月18日・19日
国際シンポジウム「近代の「西餐」、「洋飯書」及び「大餐廳」」



12月11日
国際シンポジウム「東アジア DH 研究推進とそのための環境構築一次世代の東アジア文化交渉学のために」

2020～2021

2022～2023



2022年9月19日～9月23日・
2023年1月30日～2月3日
クラウドファンディング事業パチカン
図書館現地調査

2022

3月23日～5月8日

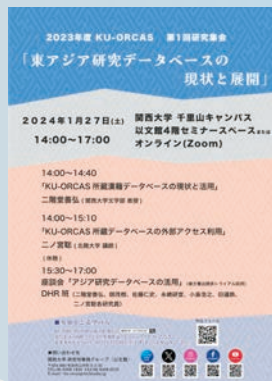
日英研究者による共同展覧会「サロン! 雅と俗一京の大家と知られざる大坂画壇」開催 (於: 京都国立近代美術館)



2023

3月24日
研究クラウドファンディング「パチカン図書館」に収蔵された日本関連史料の謎に迫る!」成果報告会

2024



1月27日
DHR 班第1回研究集会「東アジア研究データベースの現状と展開」



8月26日
デジタルアーカイブジャパン・アワード2024受賞

2025

関西大学デジタルアーカイブ画像総数
5,800点以上



DH コンソーシアムの活動について

関西大学アジア・オープン・リサーチセンター (KU-ORCAS) は、DHコンソーシアム協議会に参画しています。DHコンソーシアムとは、文部科学省の「人文学・社会科学のDX化に向けた研究開発推進事業」(2024~2026年度)の受託により、人間文化研究機構が中心になって大学や研究機関の共同体制を構築し、運営されているプロジェクトになります。その目的は、日本ではまだ遅れているデジタル・ヒューマニティーズ関連の教育や研究を推し進めることにあります。現在は20を超える大学や研究機関が参加して、活発な活動を展開しています。国際シンポジウムや講習会など、多くのイベントが開催され、各方面にデジタル・ヒューマニティーズの重要性が認識されつつあるところです。関西大学アジア・オープン・リサーチセンターは、当初は研究部会にのみ所属していましたが、いまは教育部会にも参画することになりました。今後とも、多くの研究機関との交流を深めながら、情報交換を行いつつ、デジタル・ヒューマニティーズの発展に寄与したいと考えております。

センター長 二階堂 善弘



藻刈舟図(森鳳)



山水図(木村兼葎堂)

No9

KU-ORCAS NEWS LETTER

発行日 2026年3月31日
発行 関西大学アジア・オープン・リサーチセンター
〒564-8680 大阪府吹田市山手町3丁目3番35号
TEL:06-6368-0653 E-Mail:ku-orcas@ml.kandai.jp

